

糸魚川 - 静岡構造線活断層系変動地形マップ (1): 概要

Geomorphological map of the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line Active Fault System, Part 1: Overview

宮腰 勝義[1]; 三浦 大助[1]; 宮脇 明子[2]; 井上 大榮[1]

Katsuyoshi Miyakoshi[1]; Daisuke Miura[1]; Akiko Miyawaki[2]; Daiei Inoue[1]

[1] 電中研; [2] ㈱阪神コンサルタンツ

[1] CRIEPI; [2] Hanshin Consultants co.,Ltd

<http://criepi.denken.or.jp/jp/>

1. はじめに

(財)電力中央研究所では、糸魚川 - 静岡構造線活断層系(糸 - 静線)のセグメンテーションモデルを明らかにするため、平成 10 - 14 年度の 5 ヶ年に渡り地形・地質・トレンチ調査並びに反射法地震探査を実施した。今般、当所が行った変動地形区分並びに地質・トレンチ情報を記載した「糸魚川 - 静岡構造線活断層系変動地形マップ」を作成したので紹介する。

本マップは、プロジェクト全般の成果のみならず、既存研究を含めた糸 - 静線活断層系の変動地形・古地震学的特徴、並びに活断層トレースの分布と変動地形・古地震イベントを一覧できる。なお、個々の研究成果は公表済(遠田ほか, 2000; 三浦ほか, 2002; 2004a; 2004b)並びに今後順次公表予定でありそれらも参照されたい。

2. 変動地形マップ

構成: 本マップは、基図として国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図を用い、糸 - 静線中・南部の領域をカバーする図 3 葉からなる(松本・諏訪 - 富士見・白州 - 櫛形地域)。

内容: 各図葉ごとに、詳細に区分された段丘面・地形・活断層リニアメント・断層露頭位置・トレンチ調査位置・調査結果概要・反射法地震探査測線などが記されている、断層リニアメント判読は改訂版土木学会基準(井上ほか, 2002)に基づいている。本プロジェクトで実施したトレンチ調査については、トレンチ調査で後期更新世以降の断層活動が認められなかった地点も示した。

以上のような本マップの特徴を総括すると、以下のようなものである。

- (1) 活断層の可能性のあるリニアメント 1 つ 1 つの確からしさをランク付けしている。
- (2) リニアメントランクの異なるトレースごとにトレンチ調査を実施し、その結果を確認できる。
- (3) これら活断層トレース・変動地形・トレンチ調査位置の関係が一目でわかるような配色を行い、変動地形情報と活断層トレース・トレンチ調査の関係を概観できる。

なお、変動地形マップの内容の詳細と成果の総括は別講演(三浦ほか, 本大会)にて報告する。